

日整会員20名が活動

IOCの視察団が絶賛!!



TOKYO 2020
オリパラ
救護

医科学委員会からも好評



発行
公益社団法人
日本柔道整復師会
発行人 工藤鉄男
編集人 山崎邦生

新型コロナウイルスの影響で歴史上初の1年延期となった東京2020五輪とパラリンピックが約1ヶ月半にわたり開催され、世界のアスリートが日本に集まった。コロナ禍にあっても大会に携わるさまざまな人たちが力を結集しての祭典であった。日整も全国から選んだ20名の会員と公益社団法人東京都柔道整復師会(以下、都柔整)の会員100名が交代で大会の成功に協力し、IOCの視察団から絶賛を受けた。以下は都柔整からの報告記事である。

7月24日から9月5日まで開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に、日整より全国から選ばれた20名の会員による救護活動が幕を閉じました。メンバーはコロナ禍で事前講習会も、すべてリモートで毎回深夜にまでおよび、柔道競技では17



工藤日整会長

都柔整 100名の会員が交代で活動 フィジカル・トリートメント



待機する会員

名、水泳会場2名、カヌー会場に1名が選任され交代で活動を行いました。柔道競技では講道館の練習会場と武道館に医師、理学療法士、柔道整復師のチーム構成で毎朝医師を交えての打ち合わせの後、現場にて活動。ケガをした選手の応急手当ではなく、救急搬送が主な活動に皆戸惑いながらもチームワークで最後まで乗り切り、IOCの視察団からは柔道整復師の素早い動きに絶賛されていたそうです。全日本柔道

連盟医科学委員会の医師からも、今後開催する国際大会での活動を要請されました。また、都柔整では海外メディア対象の救護ならびにフィジカル・トリートメントルームを東京有楽町駅前のTokyo Media Center内に開設。毎日3人体制で100名が交代で活動しました。海外の報道関係者からは好評で毎日約20人が来館、リピーターも多く、スポーツ誌やYoutubeの取材も多く受けました。期間中は何度となく工藤鉄男日整会長はじめ理事者も見学を訪れ会員を労っていただきました。大会期間中、自身の施術所を休んでオリパラ活動に参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

Tokyo media Centerとは

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中、取材活動を行う国内外のメディアの取材拠点として、東京都が有楽町駅前に設置した施設。

7,533名の会員が登録



会員限定 メール配信ツール 日整ニュースレター登録のお願い

日頃より日本柔道整復師会の活動にご協力をいただき感謝申し上げます。

日整は機関誌「Feel!Go!」を年4回(1月・4月・8月・11月)と「日整トピック」を新聞形式で併せて発行することにより、会員の皆様に日整の活動をより多くお知らせするよう情報の配信に努めております。

また、「日整トピック」は、会員に有益な情報をタイムリーに発信することを第一と考え最新情報をお届けしております。会員の皆様のパソコンやスマートフォンのメールアドレスをご登録いただき、「日整トピック」をはじめ必要な情報をダイレクトにお届けするメール配信「日整ニュースレター」をご覧ください。

このメール配信は、保険関係等の日整の重要な活動状況、柔整に関する情報、「匠の技 伝承」プロジェクト等の研修内容、会員支援情報など、日整が伝えたい内容を会員各位に直接連絡できるようにすることを目的としています。日整トピックの掲載内容もさらに充実させて配信する予定です。日整の主要事業のお知らせを会員が楽しみにしてもらえるような、日整会員必須の情報ツールに育てていきます。

「日整ニュースレター」の配信は、下記の登録サイトから直接ご登録ください。QRコードからも簡単に登録できます。

(広報部)

日整ニュースレターの登録サイトは、

🔍 <https://shadan-nissei.or.jp/Newsletter/Reg/> 🔍 検索

QRコードから登録は、

